薬局窓口での AMR 啓発活動 ＆ 薬剤師・患者の意識・行動調査研究

～ WaICCS・薬剤師会合同調査 ～

日本赤十字社和歌山医療センター（元和歌山生協病院） 加藤渓
和歌山ろうさい病院 満田正樹
和歌山県病院薬剤師会会長 阪口勝彦
和歌山県薬剤師会 古川晴浩
和歌山県薬剤師会会長 稲葉眞也
日本赤十字社和歌山医療センター感染症内科部 久保健児

厚労省から AMR 対策アクションプランにもとづく啓発リーフレットが配布されたのを活用して、薬局窓口において患者に対する啓発活動を実施した。その際、単純な啓発活動に終わらせずに、和歌山県薬剤師を通じて AMR 対策に関する薬剤師の意識および患者の抗菌薬内服行動について、調査を行った。

方法としては、和歌山県病院薬剤師会と和歌山県薬剤師会の薬剤師を対象にアンケート調査を実施した。調査項目は基本情報、AMR アクションプランの認識の有無、抗菌薬処方量に対する意識などとし、病院薬剤師と保険薬局薬剤師で比較した。

その結果、病院薬剤師 84 名、保険薬局薬剤師 45 名から回答を得ることができた。AMR という言葉の認識割合は、両群で同等だった。AMR 対策推進リーフレット（ガンダムの絵柄）の使用は、保険薬局薬剤師で多かった。抗菌薬の処方意図が分からないと答えた割合は保険薬局薬剤師で高い傾向にあった。2017 年以降の抗菌薬処方の変化は、保険薬局薬剤師が、より顕著に感じており、AMR アクションプランで目標とする外来内服抗菌薬の適正使用の可能性が示唆された。

抗菌薬の処方意図の記載が不要な処方を減らすことに繋がるというデータもあるため、医薬連携等により、抗菌薬の処方意図が薬剤師に分かる仕組みを構築することが、AMR 対策を推進する上で必要と考えられる[1)]。地域ネットワークの中で、医師と病院薬剤師、保険薬局薬剤師が連携して取り組みを推進していくことが重要である。

なお、本調査の詳細は、現在論文投稿中である。

1）D Meeker, JA Linder, CR Fox, MW Friedberg, SD Persell, NJ Goldstein, TK Knight, JW Hay, JN. Doctor : Effect of Behavioral Interventions on Inappropriate Antibiotic Prescribing Among Primary Care Practices: A Randomized Clinical Trial. JAMA, 315, 562-570. (2016)